

# To Be!

見つける、叶える、なりたい自分。それが東北文教大流。



入学者アンケートより

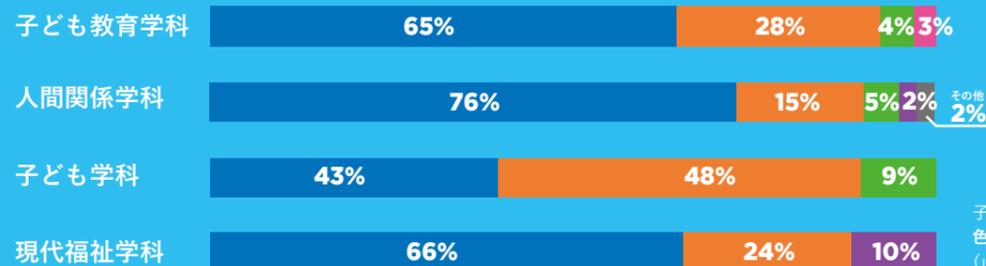
# 数字で見る 東北文教大学

将来の道のりを決める上でとても重要な進路選択。東北文教大学に入学した先輩たちは、志望校の決定から受験、入学までをどのように進めて来たのでしょうか？今回は「入学者アンケート」より生の声をご紹介します。ぜひ今後の進路選択の参考にしてみてくださいね。

## #1

### When did you know?

本学を知ったのはいつ頃ですか？



高校生の時に  
知った人が  
多いですね！



子ども教育学科/3年  
色摩 香穂さん  
(山形県立長井高等学校 出身)

## #2

### What was the trigger?

本学の受験を決めるきっかけは何ですか？



どの学科でも「自分の意思」が1位でした。

子ども教育学科/4年  
中村 高太郎さん  
(山形県立鶴岡中央高等学校 出身)

## #3

### Why did you decide?

本学への進学を決めたのは何ですか？



## #4

### OPEN CAMPUS

オープンキャンパスの参加理由



入学前に学内の  
雰囲気を知りたい  
ですね！

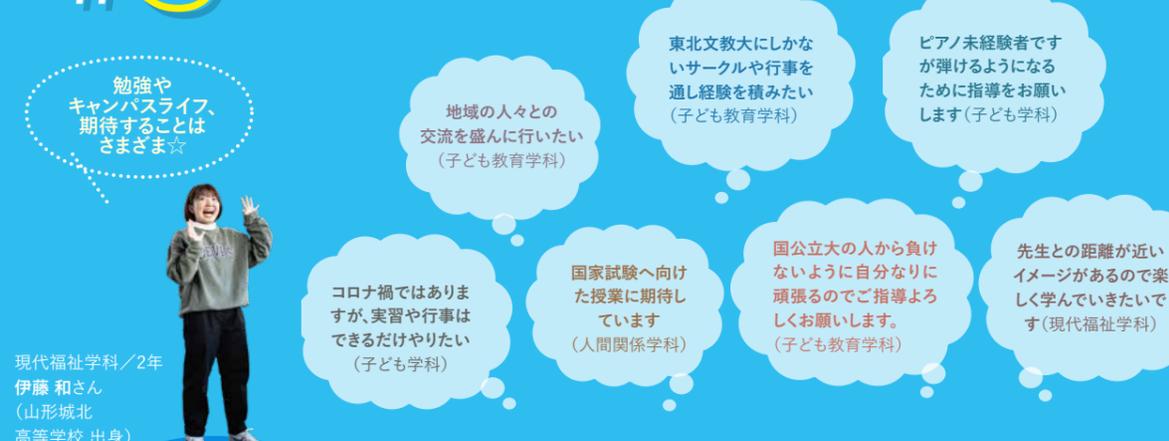


子ども学科/2年  
森谷 雛さん  
(山形県立新庄北高等学校 出身)

## #5

### EXPECTATIONS

本学に期待したいこと



現代福祉学科/2年  
伊藤 和さん  
(山形城北高等学校 出身)



**読**書の秋がやってきました。新しい知識の習得や視野を広げたいなどの理由でもっと読書の時間を増やしたいと思っている人も多いのでは？今回は学生たちに、影響を受けた本や自分の人生を変えた一冊について聞いてみました。

TOHOKU BUNKYO  
**my BEST BOOK**

**ワタシが出会った運命の一冊。**

ワクワクや驚き、感動も。



『電池が切れるまで』  
作：宮本雅史  
絵：石井勉  
KADOKAWA/角川こぼれ文庫

本の中にあっただのは  
懸命に生きる  
子どもたちの姿。

子ども病院で過ごす、余命いくばくも無い子どもたちが書いた作品や詩、描いた絵を掲載している本。小学生の頃に読み、「自分と同じ年頃の子たちがこんなに頑張っているんだ」と衝撃を受けました。そんな私の現在の夢は、保育者。子どもたちにとって“面白い”と思ってもらえる先生を目指して頑張っています。

人間科学部 子ども教育学科/3年  
**武田 果穂さん**  
岩手県立大船渡高等学校 出身



『学校の『当たり前』をやめた。』  
工藤勇一  
時事通信社

本がくれた、  
たくさんの気づき。  
そして“学び”を  
見つめ直すきっかけに

高校3年生の頃、教育関係の本を探していて出会った一冊です。教育現場の問題点を指摘した内容には頷ける部分が多く、学びの在り方そのものを考え直すきっかけになりました。大変だけどその分、得るものが大きい職業が小学校教員だと思います。就職しても向上心を持ち続け、理想の教育者を目指したいです。

人間科学部 子ども教育学科/3年  
**毛利 仁駿さん**  
山形県立米沢工業高等学校 出身



『うちの輝く『ご話』』  
公益社団法人  
日本看護協会  
河出書房新社  
Kenio KADOKAWA

現在の自分に生かされている、  
命の尊さや  
人と関わることの大切さ

高校入試の時、図書館でたまたま手にとった『いのち輝く話』。当時、看護の道に興味があった私にとって、そこに綴られた看護師の方々の体験談は強く心に響く内容でした。現在は介護福祉へと目指す道は変わりましたが、この本で学んだ命の尊さや人と関わることの大切さは自分の考え方に生かされていると感じます。

短期大学部 現代福祉学科/2年  
**本島 知夏さん**  
山形県立上山明新館高等学校 出身



『サッカーで日本、勉強で東大現役合格』  
小澤一郎 洋泉社

「文武両道」への努力が  
自分の境遇とオーバーラップ

中学からサッカーのクラブチームに所属し、高校もスポーツコースへ。サッカー漬けの日々の中、勉強も疎かにはできず両立に奮闘していた当時、タイトルに惹かれて購入した本です。強豪サッカー校の部員がいかんして「文武両道」を実現しているのかが書かれており、かつても今も自分の人生の指南書のような一冊です。

人間科学部 人間関係学科/1年  
**渡邊 遥稀さん**  
日本大学山形高等学校 出身



『銀河鉄道の夜』  
宮沢賢治  
岩波少年文庫

作品から学んだ福祉の精神。  
地域に役立てる人材になりたい

高校生の頃ずっと読んでいた『銀河鉄道の夜』は、作者の思いに共感できる大好きな一冊です。宮沢賢治の著作は、自分を犠牲にしても他人に優しくしようというテーマが根底にあるものや、福祉の精神につながる考え方が描かれているものが多くあり、保育者を目指す上で、自分の考え方に大きな影響を与えてくれました。

短期大学部 子ども学科/1年  
**酒井 陽さん**  
山形県立正高等学校 出身



『世界から猫が消えたなら』  
川村元氣 小学館文庫

読書家の母の薦めで  
読んだ一冊。今では  
かけがえのない宝物に。

中学生の頃、自暴自棄になっていた私に母が薦めてくれた一冊。“世の中は嫌なことばかりじゃない”というメッセージがストンと胸に落ち、これまで自分に注がれていた両親の愛情に気づききっかけにもなりました。「大学生活を全力で楽しめ」が母の教え。大好きな本と関われる司書を目指しながら、勉強も遊びも楽しんでいます。

人間科学部 人間関係学科/1年  
**池田 一輝さん**  
山形県立酒田西高等学校 出身



『ノンタンシリーズ』  
作：キヨノサチコ  
偕成社

幼い頃私が過ごした  
豊かな時間を今度は  
保育者として子どもたちへと

小さい頃に両親からたくさん読み聞かせしてもらった『ノンタンシリーズ』。幼心にも、お話に出てくる事柄を自分の日常生活に何かと投影していた覚えがあります。現在、私が目指しているのは保育者。私に楽しい思い出をくれた両親や当時の保育園の先生方のように、将来は子どもたちと豊かな時間を共有したいです。

短期大学部 子ども学科/1年  
**三浦 真綾さん**  
山形県立酒田東高等学校 出身



『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』  
Kenio KADOKAWA

読書を通して再確認できた  
自分の“居場所”の心地よさ。

Youtube を見て大ファンになったkemio。出版した本ももちろん購入しました。これを読み、友達や家族などが素直でいられる“居場所”の大切さを改めて知り、その居場所があることで心を強く持てるようになった気がします。“気負わず生きていいんだよ”と語りかけてくれるような一冊。高校生の皆さんにもぜひ読んでほしいです。

短期大学部 現代福祉学科/2年  
**大澤 美紗季さん**  
山形県立高島高等学校 出身





高梨 友也  
TAKANASHI TOMOYA  
講師  
人間関係学科

人を見るための  
的確な視点や調整力を育み  
他者だけではなく  
自身の人生をも豊かに

教員プロフィール／東北文教大学 人間科学部 人間関係学科 講師。東北福祉大学通信制大学院修士課程修了。社会福祉法人やまがた市民福祉会で相談員として勤務。グループホームの管理者、特別養護老人ホームの施設長などを務める。2010年に東北文教大学短期大学部 人間福祉学科 非常勤講師に就任。2021年4月より現職。専門分野は社会福祉学。

高齢化や生活の多様化に伴い  
必要性が高まるソーシャルワーク

**渡邊**／先生のご専門の一つである「ソーシャルワーク」とはどのようなものですか。

**高梨**／社会生活の中で課題を抱える人に対して、周囲や地域の人々との連携や調整を図り、必要な社会福祉サービスを組み合わせることにより問題の解決に取り組むことを指します。「ソーシャルワーカー」は、一般的には社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格を持ちソーシャルワークを実践する専門職のこと。介護施設に勤務する生活相談員のほか、自治体の委託や社会福祉協議会に所属するコミュニティソーシャルワーカーや、病院に勤務する医療ソーシャルワーカーなどがあります。年々活躍の場が広がり、期待される役割も大きくなっています。

**渡邊**／ソーシャルワークを研究するようになったきっかけは。

**高梨**／初めて学んだのは、福祉教育を専攻していた大学時代でした。そして卒業後は介護施設に勤務しながら、認知症

について研究するように。そこで気づいたのは、周囲の環境が認知症ご本人に与える影響の大きさでした。周囲の対応次第で、ご本人がストレスを感じることなく、認知症の進行をも抑えることもできる。そのように周囲と連携し環境を整えることは、つまりはソーシャルワークに通じること。認知症についての研究が、ソーシャルワークの有益性を再確認するきっかけにもなりました。

チーム対応により課題を解決。  
そこから生まれる達成感と喜び

**渡邊**／先生はソーシャルワーカーの勤務経験がおありですね。仕事のやりがいは何ですか。

**高梨**／ひと言で言うと「ご本人の生活の質が向上」した時の達成感と喜びでしょうか。これは多くの場合、関係機関や他職種とのチーム対応をなくしては成しえないこと。人の生活は変化するものですので、一度課題を解決できたとしてもまた新たな課題に対処しなければなら

い難しさがありますが、その都度周囲とよい連携をとれた時、そこにやりがいが生まれます。

**渡邊**／ソーシャルワークを学び身に付けた力を、私たち学生にはどのように役立ててほしいと思われませんか。

**高梨**／かつて社会福祉は、高齢者や障がい者など支援を必要とする方々を対象とした“限定的社会福祉”の考え方が主流でした。しかし近年は全ての人を対象とする“普遍的な社会福祉”の時代に移行しつつあると認識しています。ソーシャルワークも、専門領域や仕事の場面に限った特別なものではなく、日常生活を円滑に営むためにも発揮できる機能です。ソーシャルワークは対人援助ではありますが、自身の人生を豊かにするためにもぜひ役立ててほしいですね。



NOTICE BOARD

REPORT 「耀」同窓会  
奨学金授与式の開催



7月12日、東北文教大学にて「耀」奨学金授与式を行いました。この事業は、同窓会が、夢と希望を持って目標に向かって頑張っている学生に毎年奨学金を授与しています。令和3年度は、5名の学生が採択されました。

授与式では、同窓会名誉会長の須賀一好学長と佐藤克子会長より勉学や就職活動に有効活用してほしいと挨拶があり、採択した学生一人一人に奨学金が手渡されました。授与された学生からは、「将来の目標や自分の夢を実現するために奨学金を大切に活用します」と、力強い決意と感謝の言葉がありました。出席いただいた大学関係者並びに同窓会役員の方々からの激励をいただき、授与式は滞りなく終了しました。

NEWS LINE個別相談会  
開催時間を拡大して開催中



本学では、LINEを使った個別相談会を開催中です。祝日を除く毎週月～金曜日の午後4時～午後6時の日程で開催しています。入試広報センターのスタッフが受験生の方・保護者の方を対象に、本学の学部・学科の特色の説明や、入試・進学に関する相談・受付を行っていますので、ぜひご利用ください。参加方法はLINEで「東北文教大学」と友だちになり、トーク画面から質問をお送りください。詳しくは、ホームページをご覧ください。

NEWS 新型コロナウイルスワクチンの  
職域接種を実施



本学の学生、教職員及び山形城北高等学校と東北文教大学付属幼稚園の教職員、さらに関連する社会福祉法人の関係者計約1100人に対し、県内の大学では初となる、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を行いました。1回目は7月10日、11日、25日の3日間、2回目は8月7日、8日、21日、25日の4日間の日程で実施しました。小学校、幼稚園や保育所、介護施設などで実習する学生が多いため、希望者へ無事にワクチン接種を行うことができ安堵しています。新型コロナウイルス感染症対策は今後も万全を期し、学生たちの安全安心な学びの確保に努めてまいります。

NEWS 個人・団体での大学見学を  
随時受付中

2019年大学見学の様子



本学では、オープンキャンパス以外の日でも、個人・団体(学年やクラス単位でも可)での大学見学を随時受け付けています。見学の内容は学科説明・模擬授業・学食体験・キャンパスツアーなど、ご希望に応じて実施いたします。「東北文教大学の雰囲気をもっと確かめたい」「東北文教大学のこともっと知りたい」という受験生や保護者の皆さん、ぜひ大学見学へお越しください。詳しくは入試広報センターまで、お気軽にご相談ください。

【入試広報センター】  
TEL:023-688-2296/E-mail:GO@t-bunkyo.ac.jp



子どもに必要とされ

しっかりと心に

寄り添える存在に

## 坂野 豊穂さん

SAKANO TOYOO

米沢市立北部小学校

もともとスクールカウンセラーの仕事に興味があり、心理学を学びたいという理由で東北文科大学に進学。入学後すぐに友達とコーラス部を結成し、児童施設や障害者施設でのコンサートを企画したり、駅前でゲリラライブを敢行したり、学業以外でも充実した日々を過ごしました。

4年生の時、小学校の教育実習へ。それまでもスクールサポーターとして小学校を訪れる機会は頻繁にあったものの、教壇に立つのは初めての経験でした。先生という立場で子どもと関わる難しさを痛感しましたが、同時に「これを極めて、子どもたちから必要とされる先生になりたい」と強く思うように。小学校教員という仕事の魅力に気づき進むべき道が見えた、大きな転機となる出来事でした。

授業で心がけているのは、「どうしてこうなるのか」という理由や本質をきちんと理解できるように、子ども自身によく考えてもらうこと。そして何より子どもが楽しいと思える授業づくりです。その原点となっているのは、在学中に仲間と繰り返し行っていた模擬授業。子どもが楽しめるアイデアや、アドバイスを皆で交換し合った経験は今に大きく活かしていて、当時のアイデアを思い出し、今も授業の参考にすることもあります。

この仕事の一番のやりがいは、子どもの成長をすぐ側で見守れること。時に苦しみや課題を抱えた子どもの接し方に悩むこともありましたが、信頼関係を築き、私が見守っているという安心感を与えることで、その子自ら壁を乗り越えようとする姿を見られた時には何物にも代えがたい喜びを感じます。しっかりと子どもたちの心に寄り添える教員を、今後も目指していきたいです。

## 私の HISTORY

プロフィール  
1991年生まれ。米沢中央高等学校出身。2014年東北文科大学子ども教育学科卒業。同年から米沢市立広幡小学校教諭。2019年から米沢市立北部小学校教諭。

1年次

心理学を学ぶため東北文科大学に進学。コーラス部を新たに立ち上げ、充実した毎日過ごす

4年次

小学校での初めての教育実習を経験

ここがターニング Point!

教えることの難しさを実感するも「必要とされる先生になりたい」と奮起



26歳

前任の小学校にて、初めて担任した3年生を再び担任し卒業生として送り出す。卒業式では入場の瞬間から号泣

30歳

授業研究の先導役である研究主任に抜擢。校内の国語の授業の在り方を一層真剣に考えるように

現在

4年生を担任。子どもたちの心しっかりと寄り添える教員を目指し、向上心を持ち続けながら日々の業務に奮闘している